



夕日寺1300年協議会
夕日寺校下町会連合会



夕日寺史跡散策コース

・所要時間は、施設が見れた場合の時間です。
・山コースは、山歩きの服装(帽子、長袖、ズボン、汗拭きタオル、歩きやすい靴、水筒など)で参加してください。
・散策コースの施設は、通常解放されておりません。公民館で散策実施時に見ることができる場合があります。

詳しくは金沢市夕日寺公民館にお電話、又は右記のQRコードからホームページをご覧ください。
夕日寺公民館 TEL:076-251-0027



A 東長江町コース 里コース 3時間(2km)

夕日寺小学校 ▶ 三ノ坂往来起点 ▶ 長屋道標 ▶ 菅原神社 ▶ 最勝寺 ▶ 夕日寺小学校

見どころ
城址:長屋城、一ノ谷、鼻尾城
ジンプツ:神仏橋
三ノ坂往来起点:茶店跡
長屋道標:宝乗寺信仰の道標(法華道の起点)
山王社跡:「山王坂」名称の由来
菅原神社:白山神社と併合
最勝寺:本尊「阿弥陀如来」慶長年代(420年前)
蓮如作「十字名号」「大師像」他

B 地名発祥夕日寺コース 山コース 3時間(3km)

夕日寺公民館 ▶ 三ノ坂往来 ▶ 石碑 ▶ 大休場 ▶ 堂屋敷跡 ▶ 夕日寺観音堂 ▶ 夕日寺公民館

見どころ
三ノ坂往来:城郭遺構
イシナズコ石碑:刻字「南無大慈観世音菩薩」
大休場:茶屋跡、石碑「義賢名号塔」
堂屋敷跡:「養老山下日寺」跡、夕日寺B遺跡
夕日寺観音堂:泰澄大師作「千手観音」
矢田四如軒作「板地彩色絵馬額面」

C 三ノ坂往来コース 山コース 3時間(5km)

夕日寺公民館 ▶ 夕日寺健民自然園 ▶ 三ノ坂往来 ▶ 石碑 ▶ 大休場 ▶ 追分 ▶ カメ割り ▶ 法師山 ▶ 伝燈寺城址 ▶ 富樫晴貞の墓 ▶ 伝燈寺 ▶ 夕日寺公民館

見どころ
三ノ坂往来:城郭遺構
イシナズコ石碑:刻字「南無大慈観世音菩薩」
堂屋敷跡:「養老山下日寺」跡、夕日寺B遺跡
大休場:茶屋跡、石碑「義賢名号塔」
追分:車辻道標(宝乗寺信仰)
法師山:標高199m(夕日寺最高峰)
伝燈寺城址:利家と佐々成政の対峙
富樫晴貞の墓:一揆に敗れ自害する。
伝燈寺:恭応運良が創建(1308)

D 伝燈寺三河神社コース 里コース 2.5時間(1km)

伝燈寺 ▶ 富樫晴貞の墓 ▶ 前田初次郎石碑 ▶ 三河神社

見どころ
伝燈寺:恭応運良が創建(1330年代)
釈迦如来像、身代わり地蔵、弁天洞窟
富樫晴貞の墓:一揆に敗れ、三ノ坂往来で自害する。
子孫が建立した。
前田初次郎石碑:養蚕産業を興し、長江谷全域に広げる。
三河神社:泰澄大師作「狛犬」を安置
〔山コース:伝燈寺石造遺物、津田正勝墓所、奥村家五輪塔、本多利明碑 他〕

三ノ坂往来

【A】三ノ坂往来

大樋町から東方へ尾根沿いに、二俣をへて、富山の福光まで4里(約16km)の山路を通称「三ノ坂往来(道)」と呼んでいます。尾根道及び川沿い道とも、三ノ坂越と考えられますが、高峠城跡の横を通る尾根道が古道と考えられ、江戸時代の文献は金廬川沿いの道とされています。

名称については、三通りの説があります。

1. 急な坂道が三ヶ所あるので「三ノ坂」
2. 花山・後醍醐(ごだいご)・長慶(ちやうけい)の三天皇に由来するから「三王坂」
3. 坂の上り口に山王社の祠があったことから「山王坂」

この道は、古くからあったと思われ、次のことが考えられます。

- ・719年泰澄大師が通られ、地名発祥「夕日寺」の由来となる祠を建立する。
- ・1340年北国街道の裏道として開通以来、多くの人々が利用した。
- ・1584年頃、前田利家と佐々成政が対峙し、城郭が整備された。
- ・1856年藩主前田斉泰(なりやす)が参勤交代の帰りに総勢1830人ほどのお供と共に通りました。



東長江団地(長屋城付近)から三ノ坂を見る

山城址

【B】長屋城址

一揆攻略の佐久間盛政の陣営跡と思われます。

【C】一の谷城址

村人が隠れるために築いた砦と考えられます。

【D】鼻尾城址

一向一揆の頃、平田小右衛門(ひらのこえもん)が構えた砦と考えられます。



【E】伝燈寺城址

利家と佐々成政との戦いに寺僧と百姓が越中勢を追いやる。

【F】釣部城址

利家と佐々成政が対峙した城郭遺構と考えられます。

【G】高峠城址

利家と佐々成政が対峙した砦、不破彦三が城主としました。



大休場

石碑「義賢名号塔」

高峠城址

東長江・夕日寺

【H】菅原神社 東長江町

金廬川の右岸に菅原神社(菅原道真)と左岸に白山神社がありました。明治41年に合併し、現在に至ります。加賀藩主前田家の信仰が深く扁額や絵馬の寄進が行われていました。

【I】最勝寺 東長江町

鼻尾城の大将「平田小右衛門久則(ひさり)」が、一向揆に敗れ長屋村(東長江町)に住み、蓮如に帰依し「願西」と名乗り文明15年(1484)に「臥龍山 最勝寺」を興しました。



【J】夕日寺観音堂 夕日寺町

泰澄大師作と伝えられる「千手観音菩薩」が祀られています。また、矢田四如軒作の「板地彩色絵馬額面」があります。

【地名「夕日寺」の由来】

養老3年(719)泰澄大師は、医王山を開山した後、三ノ坂往来を通られ、洞窟で一夜をとおった。越中「上日寺(じょうにちじ)」(現在氷見市朝日寺)の観世音菩薩の礼拝を夢に見て、傍らの佳木で「千手観音菩薩」2体と「狛犬」2体を彫り、納める伽藍を建立し「養老山下日寺(げにちじ)」と名付けたことが由来です。それが氷見の「朝日寺」に対し「夕日寺」と言うようになり、今の地名となりました。

延徳3年(1491)伝燈寺の兵火で類焼しましたが、「千手観音菩薩」と「狛犬」は類焼を免れました。神社に安置されていたが、大正5年現在の地に「夕日寺観音堂」建立し現在に至ります。また、「三ノ坂往来」の「堂屋敷跡」が「夕日寺」の本堂跡とされています。

「夕日寺観音菩薩縁起」より

【J】「板地彩色絵馬額面」(金沢市指定文化財) 夕日寺町

制作年代は、矢田四如軒(しよけん)が50歳余りの安永中期が天明の初期頃(1780年前後)と思われます。四如軒は、加賀藩の前田土佐守直躬(なおみ)に仕えた武人画家で本名を六郎兵衛(ひろつら)といいます。中国や我国の古画を模写し画技を高め、早くから画名が広がり、俳画や仏画、鳥画が知られています。加賀の千代尼と同時代の人で松任の聖興寺にある「朝顔や…」の句の掛軸は、四如軒との合作です。



夕日寺観音堂

板地彩色絵馬額面



千手観音菩薩像

堂屋敷跡

伝燈寺・牧・小ニ又

【K】伝燈寺 伝燈寺町

恭翁運良和尚が延慶元年(1308)に創建。後醍醐天皇より「宝尊瑞応山伝燈護国禪寺」の号と寺領三万七千石を賜り天皇勅願寺となり、最盛期には七堂伽藍を構え、塔頭2カ寺、末寺50あったと言われています。

【K】伝燈寺(身代わり地蔵) 伝燈寺町

旅の僧運良和尚が、地蔵堂で一夜を過ごしてしましたら、山賊の悪四郎に襲われましたが、地蔵が身代わりとなって顔面を切られました。山賊は、悪事を悟り和尚の弟子になり修行を積んで二代目の住職「細存和尚」となりました。



富樫家の家紋と身代わり地蔵

釈迦如来像と恭翁運良像

【L】伝燈寺(石造遺物) 伝燈寺町

伝燈寺・周辺の六ヶ所に所在しています。

- 大型五輪塔(津田正勝墓所)
- 一・二世の無縫塔、本多利明碑、平法・居合道の記念碑
- 奥村氏家の家祖易英の大型五輪塔、藩士墓塔(津田義真、正堅)無縫塔
- 伝燈寺町の共同墓地
- 富樫小次郎塔(晴貞)



津田正勝墓所(大型五輪塔)



左から、奥村易英の大型五輪塔、藩士津田正堅の墓、藩士津田義真の墓



富樫小次郎塔(晴貞)

【M】三河神社 牧町

泰澄大師が造ったとの伝承がある夕日寺観音堂千手観音の残り木の「狛犬」があります。伝燈寺鎮守宮に安置されていましたが、明治の神仏分離の際、三河神社に移座されました。

【N】大己貴(オオナムチ)神社 小ニ又町

祭神は、大己貴命神(オオナムチノミコト) 大国主命(大黒様)です。



三河神社(狛犬)

大己貴神社

釣部

【O】白山神社

祭神は、菊理姫神ですがご神体は、十一面観音です。俱利伽羅の戦いで落ち延びた平家の武士が日夜礼拝したそうです。後に白木の像を金箔にしたようです。手前にある橋は、景清橋と言ひ、平景清は釣部の出身という説があります。

【P】聖興寺の祖廟

長享2年(1488)徳光正明(聖興寺開祖)が一揆で敗れた祖父等の首を釣部に葬ったことからと考えられます。現在も歴代住職の分骨を収納しています。聖興寺(現白山市)が、明応3年(1494)富樫の一族にして、釣部(現公園)に隠棲していました。聖興寺は加賀の千代尼で知られています。



白山神社

景清橋

聖興寺の祖廟

その他

【Q】セケ用水 東長江町

1740年頃、東長江に角落として水位を上げ、水揚げ場を作り、セケ所の村(長屋・御所・山の上・談義所・神宮寺・浅野・大衆免)に用水を通しました。用水路は県道210号線の幅幅などにより、失われた箇所がありますが、一部残っています。

【R】前田初次郎碑 牧町

前田初次郎は山間地の土地を上手く使うため、養蚕研究を自ら重ね、牧・伝燈寺を中心に養蚕を奨励したので長江谷全域に広がりました。蚕のため、瓦葺き2階建ての風通しの良い家に改造されたので「近辺の文化村」といわれ各地から見学者たちが訪れるほどでした。



セケ用水取入口

前田初次郎碑/前田初次郎(1857~1926)